

専 門 教 養
令和 4 年 7 月
60分

受 験 教 科 等
特別支援学校中・高 <b>保健体育</b>

## 注 意

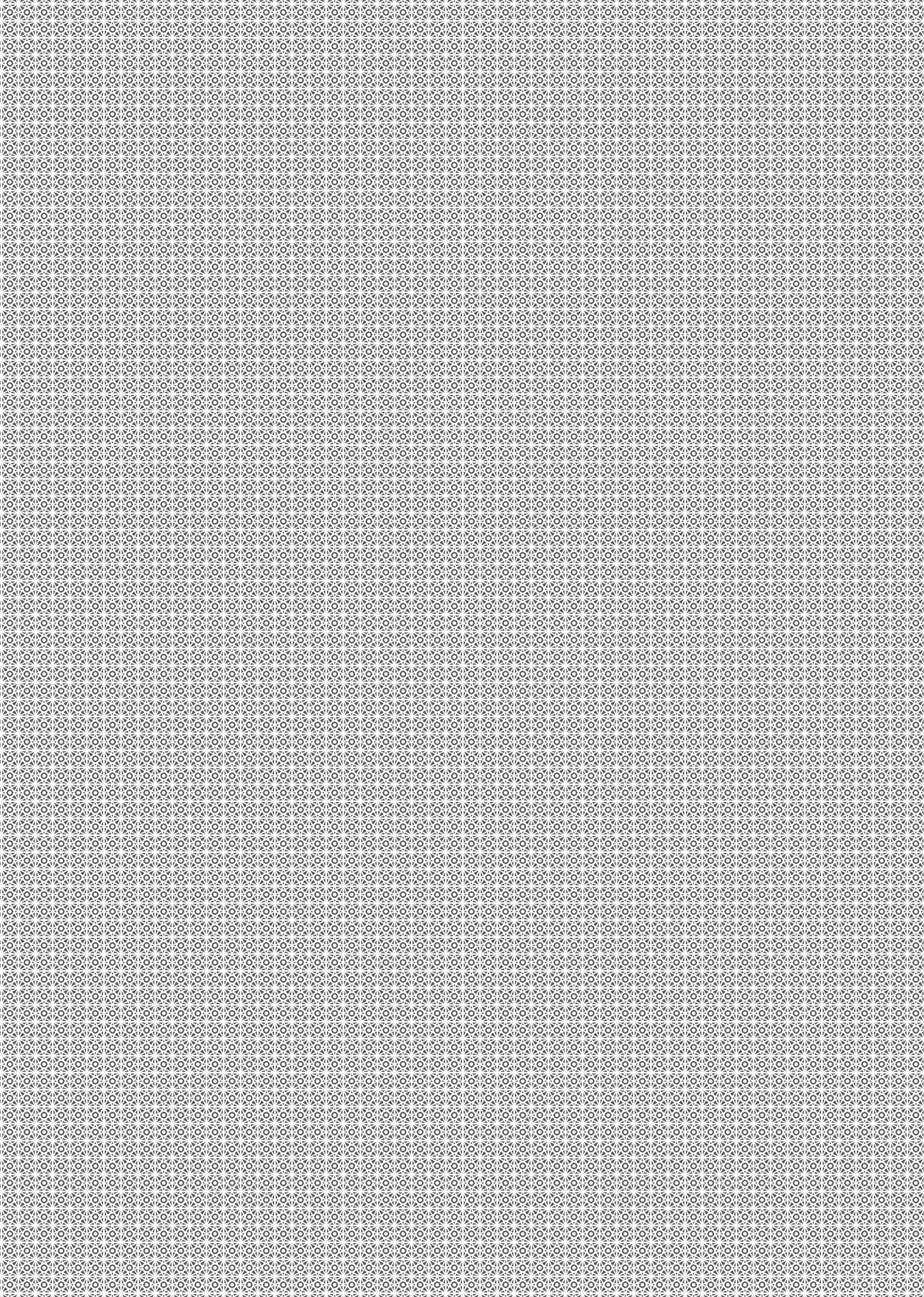
- 1 指示があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 全て係員の指示に従って、静粛に受験してください。
- 3 机上には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
- 4 他の受験者の迷惑になるような行為、スマートフォン等の使用及び不正行為をしてはいけません。
- 5 解答時間は60分です。途中退出はできません。
- 6 問題冊子のページ数は、18ページです。はじめにページ数を確かめてください。
- 7 解答用紙に、**必要事項が正しく記入・マークされていない場合には、解答は全て無効**となります。解答用紙の【1】の欄には、**受験番号**を記入し、**受験番号に対応する数字をマーク**してください。【2】の欄には、**氏名**を記入してください。ただし、【3】の選択問題を表す欄のマークは**不要**です。
- 8 この問題は、**教科等に関する問題** ① ~ ④、**特別支援教育の専門に関する問題** Ⅰ ~ Ⅳの各問題から構成されています。
- 9 問題冊子の余白等は、適宜使用しても構いませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 10 問題文中の「学習指導要領」は、特に指示がある場合を除いて、平成29年、平成30年又は平成31年告示の「学習指導要領」を表しています。
- 11 問題の内容についての質問には一切応じません。

## 解答上の注意

- 1 解答は、問題文や解答用紙の注意事項に従って、解答欄にマークしてください。各問に対して、正答は一つだけです。**各解答欄に二つ以上マークした場合は誤り**とします。
- 2 「解答番号は 1。」と表示のある問に対して、3と解答する場合には、次の(例)のように解答番号 1 の解答欄の③にマークしてください。

(例)

解答番号	解答欄
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	① ② ● ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⊖



## 教科等に関する問題

1 体育・スポーツに関する次の各問に答えよ。

[問 1] 「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(スポーツ庁 令和3年2月)に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 スポーツ実施率について、成人の週1日以上スポーツをする者の割合は、全ての年代で第2期スポーツ基本計画において掲げた成人のスポーツ実施率の目標を達成できている。
- 2 スポーツの価値について、運動・スポーツに関して、「大切」「まあ大切」としている者は全体の半数以下で、日常的に運動している者ほど強く感じている。
- 3 スポーツの価値について、スポーツがもたらす効果としては、全体で「健康・体力の保持増進」を感じている者が最も高く、「人と人との交流」「精神的な充足感」と続いている。
- 4 この1年間に実施した運動・スポーツの種目について、全体では「トレーニング」が最も多く、「体操」「ウォーキング」と続いている。

[問 2] 「令和3年度『東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査』報告書」(東京都教育委員会 令和4年1月)に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 持久力は、令和元年度と比較して向上の傾向にある一方、体の柔らかさは、令和元年度と比較して低下の傾向にある。
- 2 体力合計点は、運動・スポーツの実施頻度及び時間が多い児童・生徒と少ない児童・生徒とを比較しても変わらない。
- 3 朝食を毎日食べている生徒は、中学生において5割程度で、学年が進むにつれて増加の傾向にある。
- 4 令和3年度の携帯電話等の使用時間であるスクリーンタイムは、令和元年度と比較して、顕著に増加している。

**2** 事故防止及び安全管理に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 熱中症に関する記述として、「学校における熱中症対策ガイドライン作成の手引き」(環境省・文部科学省 令和3年5月)に照らして適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は **3**。

- 1 令和元年度の災害共済給付のデータによると、学校の管理下における熱中症は、部活動が始まる中学1年生時に最も多くの生徒が発症している。
- 2 熱中症警戒アラートとは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に、環境省・気象庁が新たに暑さへの「気づき」を呼びかけ、国民の熱中症予防行動を効果的に促すための情報提供のことをいう。
- 3 屋外でWBGTを測定する際には、黒球付きの暑さ指数計を使用し、輻射熱の影響を受けないよう直射日光を避けた場所で行い、手で持って使用する際には、黒球を握ったり、通気口をふさいだりしないようにする。
- 4 意識障害が疑われる重症の場合の身体冷却法としては、水道につないだホースで全身に水をかけ続ける水道水散布法が最も効果的とされており、次に、水分補給させてから涼しい場所に移動させ、風を送る方法が推奨されている。

[問 2] 学校における体育活動での事故防止に関する記述として、「『体育活動中における骨折事故の傾向及び事故防止対策』調査研究報告書」(独立行政法人日本スポーツ振興センター 令和3年3月)に照らして適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は **4**。

- 1 平成30年度の体育活動中の骨折事故の発生件数及び発生率は、中学校、高等学校共に平成20年度と比較して大幅に増加している。
- 2 中学校、高等学校等における体育活動中の骨折事故件数に占める体育授業中の割合は約6割で、部活動中の割合は約4割である。
- 3 中学校、高等学校等の骨折事故件数は、体育授業中ではサッカーが最も多く、部活動中では柔道が最も多い。
- 4 中学校、高等学校等での部活動における、重症の骨折事故は、他の選手と接触したり、バランスを崩したりして転倒した場合に起きている。

[問 3] 応急手当に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 擦り傷を負った場合は、感染防止のため、プラスチック手袋又は清潔なビニール袋を装着した手で、清潔な布を受傷部位に当ててしっかりと圧迫する。汚染のある傷は水道水で十分に水洗いし、汚染物を除去する。
- 2 鼻血が出た場合は、椅子に座って上を向けさせ、繊維の細かいティッシュペーパーを詰め、鼻を強くつまみ、額から鼻の周囲を冷やし安静にさせる。60分経っても出血が続くようであれば内科的な基礎疾患など別の原因も考えられるため医療機関を受診させる。
- 3 足首を捻挫した場合は、安静にし、患部を温め血管を拡張させてリラックスさせる。また、収縮性の包帯などを用いて圧迫を行い、心臓よりも足が低くなるように横にし、腫れや出血が悪化するのを防ぐ。
- 4 脳振盪など頭部に衝撃を受けた後は、ジョギングやストレッチなどの軽い運動で気分の変調などが見られないか観察を行い、何らかの異変が見られるようであれば医療機関を受診させる。

3

「体育」に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省 平成29年7月）の「体づくり運動」における〔第1学年及び第2学年〕の「体の動きを高める運動」に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 動きを持続する能力を高めるための運動の行い方の例には、床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩いたり、走ったり、跳んだり、素早く移動したりすることがある。
- 2 巧みな動きを高めるための運動の行い方の例には、自己の体重を利用して腕や脚を屈伸したり、腕や脚を上げたり下ろしたり、同じ姿勢を維持したりすることがある。
- 3 力強い動きを高めるための運動の行い方の例には、ステップやジャンプなど複数の異なる運動を組み合わせ、エアロビクスなどの有酸素運動を時間や回数を決めて行うことがある。
- 4 体の柔らかさを高めるための運動の行い方の例には、大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすることがある。

〔問 2〕 バasketボールのプレーについて、「2022バasketボール競技規則」（公益財団法人日本バasketボール協会 2022年3月）に照らして、違反とならないものとして適切なものは、次の1～4のうちのどれか。解答番号は 。

- 1 ドリブルでフロントコートに進めたが、相手プレーヤーが寄ってきたためにバックコートにいる味方プレーヤーにパスをしてスペースをつくってから、再度フロントコートでボールを受けて、攻撃を組み立て直すこと。
- 2 ドリブルしているときに、味方プレーヤーがゴール前に走り込んだので、パスをしようとボールを両手で持ったが、相手プレーヤーがいたためにパスをせずに、再度ドリブルをしてゴールに近づきシュートすること。
- 3 攻撃が始まってから15秒後にシュートしたが、リングに触れずボードに当たりゴールしなかったボールを味方プレーヤーがとって、10秒間パスを回した後に、再度同じプレーヤーがシュートすること。
- 4 ボールを持っていない攻撃側のプレーヤーが、ボールをコントロールしていない相手チームのプレーヤーの1メートル横に両足をフロアにつけて立ち止まり、味方プレーヤーがゴール前に走り込み、相手チームのプレーヤーが守備の位置に行くことを遅らせること。

[問 3] 卓球の打法に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちどれか。解答番号は  。

- 1 攻撃打法の総称であるロングの一つで、トップスピンを強くかけて打球する技術をドライブといい、カーブやシュートなど色々な種類がある。
- 2 体の中央ないしフォア寄りに飛んできた短いボールに対して、相手のバック側に曲がるようにカーブをかけながらバックハンドで打球する技術をカットという。
- 3 台から下がった位置で、自分のコートに弾んだボールの下降期に上から斜め下にスイングしてボールにバックスピンをかけながら打球する技術をツツキという。
- 4 台の近くに立ち、バックスピンのかかった打球に対して、後ろから前の方向へスイングしてバックスピン球で返す技術をチキータという。

[問 4] パラリンピックの競技に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 シットティングバレーボールは、床に臀部をつき、座った姿勢でプレーする 6 人制のバレーボールである。サーブ、レシーブの時は、臀部を床から離すことはできないが、スパイク、ブロックの時だけは、一瞬、床から離すことが認められる。
- 2 ゴールボールは、1 チーム 3 人の選手がアイシェードという目隠しを装着して行う競技である。守備の時は、コーラーと呼ばれるガイドの声による指示や、ボールの音、相手の足音を聞き分け、3 人で足以外の部分を使ってゴールを守る。
- 3 ボッチャは、ジャックボールと呼ばれる目標球である白いボールを投げ、赤、青のそれぞれ 6 球ずつのボールを投球して、いかに近付けるかを競う。手でボールを投げることができない選手は、足でボールをキックしたり、ランプを使ってボールを転がしたりすることができる。
- 4 陸上競技における 4×100mユニバーサルリレーは、各走者の障害のカテゴリーが決まっており、男女混合で男女 2 名ずつのメンバーで行われる。バトンの代わりに襷を次の走者につなぐ。

〔問 5〕 剣道における伝統的な行動の仕方を守る礼法指導に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 武道場に入る時は、靴を脱ぎそろえて、素足になり、上体を約30度前傾する立礼を行う。退室する時も、感謝の心もち、立礼をするよう指導する。
- 2 座る時には、右足を一步後ろに引き、床に右膝そして左膝の順につけ、つま先を伸ばして座る。立つ時には、両膝を床につけたまま腰を上げ、腰を上げながらつま先を立て、左足を一步前に出しながら続いて右足をそろえて立ち上がるよう指導する。
- 3 試合では、開始線に進む前に、立会の間合、約9歩の距離から提刀のまま上体を約30度前傾し立礼をする。帯刀して右足から歩み足で7歩前進し、8歩目に剣先が触れない程度に竹刀を抜き合わせ、左足を引き付けて蹲踞するよう指導する。
- 4 納める時は、蹲踞の姿勢からゆっくりと立ち上がった後に、右手で竹刀を左腰に帯刀し、左足から小さく5歩下がり、提刀となって座礼をするよう指導する。

〔問 6〕 中学校第1学年及び第2学年の「体育理論」における「運動やスポーツの学び方」に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 運動やスポーツの課題を解決するための合理的な体の動かし方を技能といい、陸上競技におけるクラウチングスタートの方法が当てはまる。
- 2 合理的な練習によって能力が身に付いた状態であることを技術といい、技術は個人の体力と関連している。
- 3 技術を選択する際の方針を戦術といい、スポーツの試合におけるパスかシュートかを選択することが例として挙げられる。
- 4 自分やチームの力、体調、試合日程に応じて合理的な練習計画を立てることを作戦といい、個人やチームの技能に応じて作戦を立てることが有効である。

4

「保健」に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 心の健康に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 12。

- 1 統合失調症とは、心や考えがまとまりづらくなってしまいう病気で、健康な時にはなかった症状が表れる陰性症状と、健康な時にあったものが失われる陽性症状とがある。
- 2 不安障害とは、精神的ストレスや身体的ストレスを背景に、脳がうまく働かなくなっている状態で、ものの見方や考え方が否定的になる。
- 3 うつ病とは、突然理由もなく、動悸やめまい、発汗、窒息感、吐き気、手足の震えといった発作を起こし、そのために生活に支障が出ている状態をいう。
- 4 摂食障害とは、食事の量や食べ方など、食事に関連した行動の異常が続き、体重や体型の捉え方を中心に、心と体の両方に影響が及ぶ病気をまとめた呼称で、10代から20代の若者が罹患することが多い。

[問 2] 次の記述は、睡眠に関するあるホルモンの説明である。このホルモンの名称として適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は 13。

脳内の松果体において生合成され、催眠作用があり、生体リズム調節に重要な役割を果たす。明るい光によって分泌は抑制されるため、日中には分泌が低く、夜間に分泌量が増加する。ただし、夜間であっても強い照明を浴びれば、分泌量は低下する。

- 1 メラトニン
- 2 チロキシン
- 3 カルシトニン
- 4 パラトルモン

[問 3] 環境と健康に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 温室効果ガスの増加により、降雨パターンが大きく変わり、乾燥地域では熱帯低気圧が猛威を振るい、熱帯地域では干ばつが進むので、世界中で熱中症の危険性が高まる。
- 2 オゾン層の破壊により、皮膚がんや白内障などの健康影響が出るのを防ぐため、1987年のパリ協定では世界共通の長期目標としてフロン類の規制、削減を徹底している。
- 3 地球温暖化によって蚊の分布域が拡大することなどにより、マラリアやデング熱など熱帯性の感染症の発生範囲が拡大し、感染症が増加する。
- 4 電気自動車から排出される一酸化炭素が大気中の水分と反応して酸性雨が降るようになり、喉、気管、肺などの呼吸器に悪影響を与える。

[問 4] 性をめぐる現代的な課題に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 SNSに起因する自らを撮影した画像に伴う被害に遭った生徒は、中学生・高校生ともに減少傾向にあり、被害時にフィルタリングを利用している場合が多い。
- 2 性感染症報告数で最も多いのは、梅毒であるが、2010年から2019年までで急速に増加しているのは性器クラミジア感染症で、約10倍に増加している。
- 3 人工妊娠中絶実施率は近年減少傾向であるが、年齢階級別では、20歳未満、20～24歳及び25～29歳のうち、20歳未満が最も高い。
- 4 年齢別にみた周産期死亡率は、20歳未満や30代後半以降で高くなっており、年齢と妊娠・出産のリスクには関連があることについてあらかじめ理解しておく必要がある。

余 白

## 特別支援教育の専門に関する問題

I 特別支援教育に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 特別支援教育に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

- 1 学校教育法では、特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障害による生活上の困難について支援を行うことを主な目的とすると規定されている。
- 2 学校教育法では、特別支援学校においては、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校の要請に応じて、特別支援学級に在籍する幼児、児童等及び通級による指導を受けている幼児、児童等に限定して、必要な助言又は援助を行うよう努めるものと規定されている。
- 3 学校教育法施行規則では、特別支援学校の設備、編制その他設置に関する事項及び特別支援学級の設備編制は、第八章及び特別支援学校設置基準に定めるもののほか、別に定めると規定されている。
- 4 学校教育法施行規則では、校長は、特別支援学校に在学する児童等について個別の指導計画を作成するものとし、その作成に当たっては、当該児童等又はその保護者の意向を踏まえつつ、あらかじめ、関係機関等と当該児童等の支援に関する必要な情報の共有を図らなければならないと規定されている。

[問 2] 特別支援学校の教育課程に関する記述として、法令に照らして適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は  。

- 1 特別支援学校の小学部の教育課程は、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、特別の教科である道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び自立活動の10の教科によって編成するものとする。
- 2 特別支援学校の小学部、中学部においては、知的障害者である児童若しくは生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合において特に必要があるときは、各教科、特別の教科である道徳及び自立活動の全部又は一部について合わせて授業を行うことができるが、特別活動はできない。
- 3 特別支援学校において、複数の種類の障害を併せ有する児童若しくは生徒を教育する場合又は教員を派遣して教育を行う場合において、特に必要がないときでも、特別の教育課程によることができる。
- 4 特別の教育課程による場合において、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用することが適当でないときは、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができる。

[問 3] 「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）」（新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 令和3年1月）に関する記述として適切なものは、次の1～4のうちどれか。解答番号は  。

- 1 副次的な籍等を活用した居住する地域の学校との交流及び共同学習が継続的に行われるためには、特別支援教育支援員を中心とした学校間や家庭等との連携強化や特別支援教育コーディネーターの活用が求められる。
- 2 特別支援学校の教師には、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を十分把握して、これを各教科等や自立活動の指導等に反映できる幅広い知識・技能の習得や、学校内外の専門家等とも連携しながら専門的な知見を活用して指導に当たる能力が必要である。
- 3 特別支援学校は、障害のある子供やその家族が避難するための福祉避難所となることも想定されるが、その際には、個々の特別支援学校の事情に留意することなく、地方公共団体が、人材の確保や備蓄等について必要な支援を行うことを検討する必要がある。
- 4 これまで、特別支援教育においては、ICTの活用が積極的に行われてきておらず、各教科等の指導においては、ICTを使用することを目的とした授業作りから始めることが重要である。

Ⅱ 学習指導要領に関する次の各問に答えよ。

〔問 1〕 特別支援学校高等部学習指導要領総則の「教育課程の実施と学習評価」に関する記述  
ア～エのうち、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのど  
れか。解答番号は 。

- ア 言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、特別活動を要しつつ各教科・科目等又は各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実することに配慮するものとする。
- イ 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実することに配慮するものとする。
- ウ 各教科・科目等又は各教科等の指導に当たっては、自立活動に基づいて行われた学習状況や結果を適切に評価し、指導目標や指導内容、指導方法の改善に努め、より効果的な指導ができるようにすることに配慮するものとする。
- エ 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学部段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫することに配慮するものとする。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 2] 特別支援学校高等部学習指導要領の「各教科」における、次のア～エの特別支援学校において配慮する事項に関する記述として適切なものは、下の1～4のうちのどれか、それぞれ選び答えよ。解答番号はアが 、イが 、ウが 、エが 。

- ア 視覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- イ 聴覚障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- ウ 肢体不自由者である生徒に対する教育を行う特別支援学校
- エ 病弱者である生徒に対する教育を行う特別支援学校

- 1 生徒の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- 2 生徒が空間や時間の概念を活用して場の状況や活動の過程等を的確に把握できるよう配慮し、見通しをもって積極的な学習活動を展開できるようにすること。
- 3 生徒の身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じて、教材・教具や入力支援機器等の補助用具を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- 4 生徒の興味・関心を生かして、主体的な言語活動を促すとともに、抽象的、論理的な思考力の伸長に努めること。

Ⅲ 次の事例を読み、後の各問に答えよ。

生徒Aは、①発達障害のある中学1年の生徒である。以下のような状況がしばしば起こる。

生徒Aの様子

- ・ 書かれた文章を読んだり、文字を書いたりすることができる。
- ・ 忘れ物や物をなくすことが多く、学習用品を整理整頓することが難しい。
- ・ 思ったことをそのまま口に出してしまい、友達とトラブルを起こすことがある。
- ・ 教室では、着席していても大きく身体を常に動かしており、②姿勢が大きく崩れ、活動を継続できなくなることがある。
- ・ 国語や数学の学習では、教師の話や板書の内容を的確に捉えることが難しく、学習を進めることが困難なことがある。
- ・ 保健体育の授業が好きで興味をもって学習に取り組むことができるが、教師が説明をしている間に、活動を始めようと立ち上がって動き出したり、ゲームで勝ちたいという気持ちが先だって、ルールを守ることができなかつたりすることがある。

（「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 令和3年6月）、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編」から作成）

[問 1] 下線部①について、生徒Aの発達障害の名称と、生徒Aに対してアセスメントのために実施するウェクスラー式知能検査との組合せとして最も適切なものは、次の1～6のうちではどれか。解答番号は  。

	発達障害の名称	ウェクスラー式知能検査
1	学習障害	WAIS-IV
2	学習障害	WISC-IV
3	自閉症	WAIS-IV
4	自閉症	WPPSI-III
5	ADHD	WISC-IV
6	ADHD	WPPSI-III

[問 2] 下線部②について、次の記述**ア**～**エ**のうち、生徒Aの障害の特性等に配慮した指導として正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は 。

- ア** 姿勢が崩れたときは、すぐに姿勢を正すように教師が叱責する。
- イ** 姿勢のチェックポイントを示したイラスト等を使い、自分で確認できるようにする。
- ウ** 座面の滑りにくい椅子を準備し、姿勢が崩れにくいようにする。
- エ** 崩れた姿勢のイラストにバツ印を付けて、姿勢が崩れたときに執ように繰り返し指導する。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 生徒Aに対して、指導目標を「一定時間落ち着いて、学習に取り組む」と設定した。次の記述**ア**～**エ**のうち、この目標を達成するために生徒Aの障害の特性等に配慮した指導として、正しいものを選んだ組合せとして適切なものは、下の**1**～**6**のうちのどれか。解答番号は 。

- ア** 刺激を統制した落ち着いた環境で、必要なことに意識を向けられるようにする。
- イ** 視知覚の特性で文字の判別が困難なため、文字間や行間を大きく広げて板書する。
- ウ** 注目すべき箇所を色分けしたプリントを用意し、注目しやすくする。
- エ** カレンダーや学級通信、お知らせなどを、黒板の周囲にできるだけ多く掲示する。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

IV 障害に関する次の各問に答えよ。

[問 1] 視覚障害の視機能評価に関する記述として適切なものは、次の 1～4 のうちのどれか。

解答番号は  。

- 1 PL法は、低年齢や知的障害などで通常の検査ができないときに行う方法で、判別できる縞の幅を視角で表し視力に換算する検査である。
- 2 遠見視力検査は、3mの距離から1個ずつ提示できる遠用ランドルト単独視標を用いて視力を測る検査である。
- 3 最小可読視標の検査は、ドットカードを用いて30cmの距離から最も見やすい小さな視標を見分けることができるかを行う検査である。
- 4 近見視力検査は、50cmの距離から1個ずつ提示できる近見用ランドルト単独視標を用いて視力を測る検査である。

[問 2] 聴覚障害における言語指導に関する次の記述ア～エのうち、「聴覚障害教育の手引 言語に関する指導の充実を目指して」（文部科学省 令和2年3月）に照らして、正しいものを選んで組合せとして適切なものは、下の 1～6 のうちのどれか。解答番号は  。

- ア 生活の言語化は、食事や着替えなど日常の生活行動を通して言語を学習させる言語指導の方法である。指導者と保護者とで日々密に連絡を取り合い、指導者の指示やアドバイスによって保護者が家庭で実践する方法が一般的である。
- イ わたりの指導は、聴覚学習、発音指導、キューサイン、文字、指文字の活用などを通じて、手話の一つ一つの音を意識させる指導である。小学校段階以降に行い、日本語の読み書きにつなげていく。
- ウ 全体法は、言葉を構成している形を覚えさせ、表出できるようにすることを目的とする指導法である。それに対し、要素法は、意味や概念や経験と、言葉とを結び付けることを目的とする指導法である。言葉の学習には両者の指導法の理念が必要である。
- エ 音韻意識は、例えば、単語を音節に分解したり、単語から特定の音節を抽出したりする能力である。指文字やキューサインといった視覚的情報も音韻意識形成の有効な手掛かりとなる。仮名文字の習得は、音韻意識の形成と密接に関連している。

- 1 ア・イ
- 2 ア・ウ
- 3 ア・エ
- 4 イ・ウ
- 5 イ・エ
- 6 ウ・エ

[問 3] 摂食機能に障害のある肢体不自由の児童・生徒に対する摂食指導に関する次の記述ア～エを、摂食機能の発達段階の順に並べたものとして適切なものは、下の1～4のうちのどれか。解答番号は  。

- ア やわらかくて形がある物をかじり取る練習をして、一口量の感覚を覚えさせながら、徐々に硬い物にして、いろいろな硬さの経験を増やす。
- イ スプーン上に、ある程度の大きさで、舌で押しつぶせるほどの硬さの食物をのせ、口唇の閉鎖を促しながら捕食させる。
- ウ 手づかみ食べを促すため、握りやすい食物を使い、口の真ん中から一口量かじり取るようにし、顔の正面から食物を取り込めるように、肘関節や手指関節を介助する。
- エ 手指で物を握ったり離したり、手に持ちやすい玩具を口に運ぶなどして口と手の協調を指導する。

- 1 ア → イ → ウ → エ
- 2 ア → イ → エ → ウ
- 3 イ → ア → ウ → エ
- 4 イ → ア → エ → ウ

[問 4] 知的障害のある児童・生徒の学習上の特性を踏まえた対応に関する記述として最も適切なものは、次の1～4のうちではどれか。解答番号は  。

- 1 職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導し、その際に、多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- 2 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際の状況下で指導するとともに、児童・生徒の失敗経験を豊富にすることで、主体的に活動に取り組む意欲を育てる。
- 3 児童・生徒の興味や関心、得意な面よりも課題や苦手な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童・生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- 4 児童・生徒一人一人の発達の側面に着目し、意欲や意思、情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに、児童・生徒の発達年齢に即した指導を徹底する。

[問 5] 次の記述は、ある疾患に関するものである。この疾患の名称として適切なものは、下の 1～4 のうちのどれか。解答番号は  。

発熱、目の充血、イチゴ舌、頸部リンパ節の腫脹、発疹、四肢の浮腫などを主要症状とする原因不明の疾患である。心臓への合併症として冠状動脈瘤が挙げられる。

- 1 川崎病
- 2 血友病
- 3 ネフローゼ症候群
- 4 ペルテス病





